

八戸工業高等専門学校同窓会

令和 2 年度 評議会 議事録

1. 会長挨拶

2. 出席者確認, 委任状確認

M5 橋場副会長、円子副会長が出席となったため、出席者 16 名、委任状 22 名、事務局 5 名、会計監査 2 名の合計 45 名となった。

3. 議案

(1) 平成 30, 令和元年度事業報告

(2) 平成 30, 令和元年度決算報告

(3) 平成 30, 令和元年度会計監査報告

令和元年度会計監査報告については、令和 2 年 7 月 11 日付で監査が終了し、資料が追加された。これについて、会計監査の白坂珠美氏から報告された。

(4) 令和 2 年度事業経過報告, 同会計経過報告 (別紙 1)

※ 令和 2 年度事業計画に「9 月 理事会、総会、懇親会 (八戸)」を追加する。

※ 支部活動費は 4 月に送金すべきである。

※ 今年度もロボコンとプロコンには活動支援費を支払う。

※ 予算として、新たに事務局運営費 100,000 円を計上する。これは、ボランティアで業務を行っている事務局メンバーへの謝礼であり、会長の了承のもと、慰労会等で使用する。

※ 事務局補佐員手当は 240,000 円ではなく、120,000 円で H P 管理は入らない。

(5) 令和 2 年度 (第 26 回) 総会について

会則により、今年度開催予定の同窓会総会 (八戸) について、予定通り開催するか否かを決定する必要がある。今回については、H P 上で、「総会での審議事項がなく、またコロナ感染の影響を配慮し、総会の開催を見合わせることにし、今後の開催については、11 月に開催予定の理事会を評議会に拡大して検討する。」と告知する。

(6) 令和 3 年度事業計画案

令和 2 年度総会が延期になった場合、令和 3 年に総会を行うか否かを、11 月に開催予定の評議会において検討する。

(7) 令和 3 年度予算案 (別紙 2)

※ 令和 2 年度に住所調査を実施するにあたり、終身会費が支払われる可能性を考え、予算に「終身会費 300,000 円」を計上する。

※ 学生活動支援費は、総枠で 500,000 円を計上する。ロボコンやプロコンも含めて、その他運動部や文化部で対外的に活躍した学生や団体を支援するようにする。支援費の使用については事務局に一任する (例えば全国高専体育大会やロボコン全国大会の補助など)。総枠 500,000 円からロボコンとプロコンの計 200,000 円を差し引いた 300,000 円が上記予算となる。

※ 新支部活動助成金の費目を削除する。

(8) 役員改選について

- ※ 任期を、「令和3年4月～令和4年3月」に変更する。
- ※ 会長及び副会長の後任を、令和3年度中に決定する。その際、今後の理事会（令和2年11月）等で自薦や他薦が無いか確認する。
- ※ 事務局長は、M10 赤垣友治氏に代わって令和2年4月から E12 工藤憲昌氏が担当しており、定年退職の関係で任期は令和4年3月までとする。

(9) 同窓会報第46号の発行計画案について

- ※ 表紙の写真について、改修工事が終了した地域テクノセンター外観に変更する可能性がある。その他については、発行計画案の通り、了承された。
- ※ 今後、学生生活動支援金（令和3年予算から）を受け取った学生や団体から寄稿してもらう。

(10) その他

① 八戸科学技術研究会との連携

①-1 通信費の補助について

通信費の折半については、郵送スケジュールが合えば利用することにし、事務局に一任する。

①-2 事務作業の応援について

八戸科学技術会の担当事務員 1 人で現事務局の仕事を行うのは無理があるので現実的ではない。一部の依頼できそうな事務作業はすでに対応済みであり、新たな支出をしてまで応援いただく必要はないと判断する。

① その他

住所調査葉書を郵送する際に、八戸科学技術研究会から資料 1 枚を同封してほしいとの依頼があった。9月上旬に郵送したいようだが、こちらとのタイミングが合えば、可能である。

② 名簿データベースの更新

瀧本副会長をリーダーに、工藤事務局長、大久保前副会長、等でシステム作りのためのワーキンググループを立ち上げ、検討する。プロコンメンバーにも手伝ってもらう。会員のメールアドレスを収集することが重要である。